

No. 18

1990

10月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
下井武平
印刷
下市田・キタバヤシ印刷

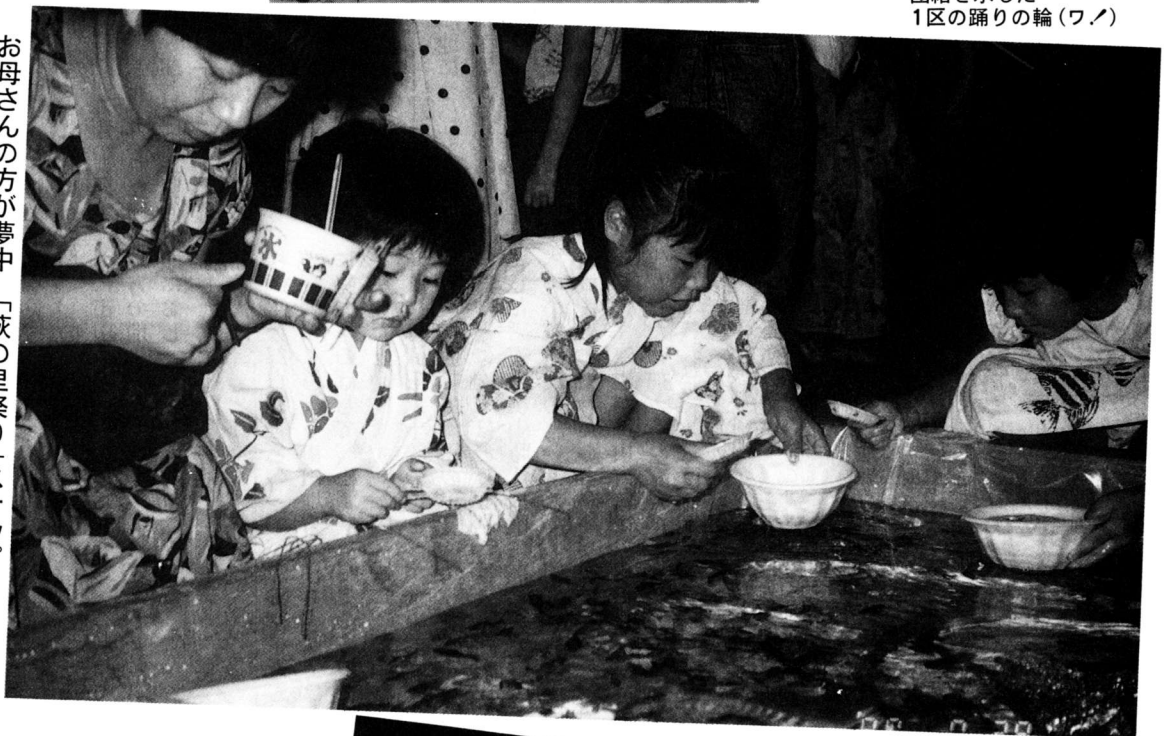


会場を酔わせた
3区のデュエット

「思い出して下さい」の曲によって
2区の大仮装軍団（サスガノ）



団結を示した
1区の踊りの輪（ワノ）



お母さんの方が夢中 「萩の里祭り」スナップ
祭りは一〇〇〇人を動員する大イベントになりました

4区の心意気で
ムード盛り上げる



6区はオバキューで
熱演した



ユカタ姿で話題をさらった
5区の熱唱

区の情勢

について

区長 下井武平



・裁判についてⅡ前号で御報告した通り藤棚・消防施設のある土地については決着しましたが、六地藏の建っている土地については事情に依り宇佐美不動産の名義になっている為に去る九月三日町及び議会の承認を得て所有権変更の裁判を始める事となり西沢弁護士に

委任致しました。弁護士の見解では、当地は明治以来藤棚のある土地と経過が同じであるから今回は短期間で決着するであろうとのこととです。

・下水道終末処理場候補地についてⅡ去る九月十日に町の「下水道等研究委員会」に於て黒沢下(図面の位置)に決まり町長に答申。町長もこの候補地に同意しました。これにより今後関係の皆様説明があり皆様との話し合いに入る事になりました。町を挙げての大事業であり、区としても関係皆様

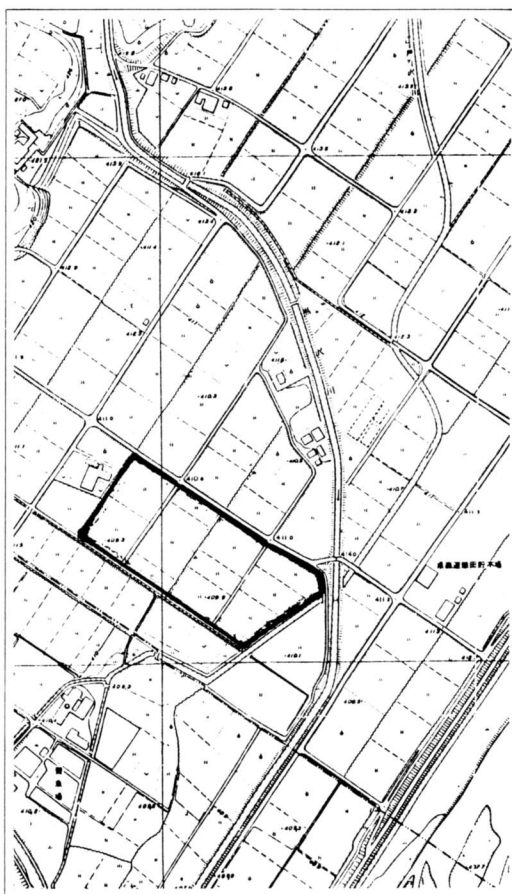
の立場に立って町と折衝してまいる所存でありますので特に皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

史蹟松岡城について(上)

資料館長 塩沢 尚人

一、松岡氏
源氏は勢力を拡げる為奥州の阿部一族を攻め滅ぼした戦いが「前九年の役」でした。破れた阿部貞任の二男仙千代は幼く乳母の懷に抱れてのがれ、各地をさまよったあげく市田の里へたどりつきました。

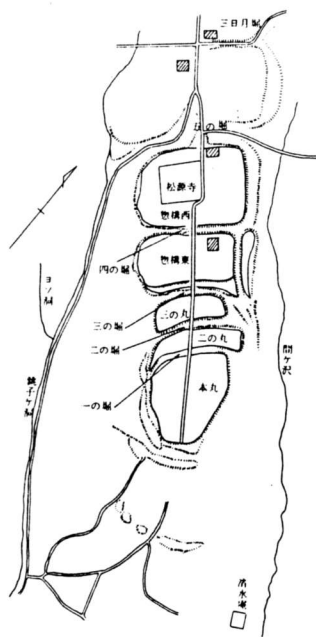
・工業団地についてⅡ機マツザワが工場が完成し去る六月二十九日より操業を始め、機甲州車輛と昭和ラミネート印刷機も本年中に工場が完成の予定であります。



時の市田の長は仙千代の人物を見抜いて、のちに市田地方の地頭におしました。仙千代は松岡平太郎貞則と名のつて、吉野朝のころより市田地方に勢力をのびして、松岡城を築いたといふます。戦国時代には武田八十騎の将となり、竜西では飯田の小笠原氏などに次ぐほどになりました。安土桃山時代に松本の小笠原氏の誘いで、高遠城攻めに乗ったことが禍いして、家臣が徳川方に密告したため捕えられ、天正十六年(一五四七)五百余年の歴史をもつ松岡氏も、改易といって身分や禄も屋敷も取りあげられ、遂に滅びてしまいました。

松岡氏の最初の居館は夫婦杉のある古城といわれます。ここへは幼い時道中で世話になった人達を迎え、屋敷を与えたとも伝えられます。なお、南小学校南に古御家という砦があります。これは始めのころの見張所とも居館ともいわれます。

松岡城址現況見取図



古御家は近ごろの宛名で昔は古小屋ではなかったかと、町史の資料にあります。

二、松岡城の築城 記録

も松岡城だけかと思えます。このことは一つに城の堅固なつくりが、如何に見事であつたかを物語るもので、市田は勿論高森町の誇りであり、二つには地域の方々が如何に城を愛していたかの証拠だと思えます。

したがって是非でも価値ある史蹟としての保護・保存は、地域は勿論町当局にとっても大切な課題ではないでしょうか。(つづく)

三、松岡城の重要さ
松岡氏が改易になってから今日まで約四百五十年、今日なお吉野朝のころの城址を立派に残している城は、広い伊那谷で



各委員会対抗 グランドゴルフ大会スケッチ

三島 勤



戦況を見守る区の三役



いざ征か

野上・村沢両コーチ指導の下に、世紀の一戦はその火蓋を切る。南無八幡大菩薩。運命に依り組まれし二人一組。ネライは前方に設けられしホールなり。
「ウワッスゴイ一発ダ」「力を抜いてやれよ」「欲ばるとそうなるんだ」「相当や」とるな、ゴルフを。外野は多くにぎやかにぎやか。喊声あり、高笑あり、はた又溜息も……。

九月の一日。残暑いや酷しい保育所グランド。集える猛者四十余名。何れも一くせ二くせも無い？ゼントルマン。己がじし手にするは何ぞ。抜けば玉散る氷の刃ならずして木製（否プラスチックやも）のスティックに加えて三色のボール。赤白青。これぞ時代を先駆けるグランドゴルフなるもの、用具なり。

高橋代議員会長おごそかに選手宣誓。「我々選手一同は……」。



優勝の北島・原組

率いる部落長グループの優勝を以って、聖なる戦いの幕は閉じたり。

あゝ愉快なり愉快なりスポーツ。楽しかり、若人？のグランドゴルフ。

「クエイト」も「イラク」も忘れし平和のひとつときに感謝。

去んぬる昭和二十年。此の月、此の日。

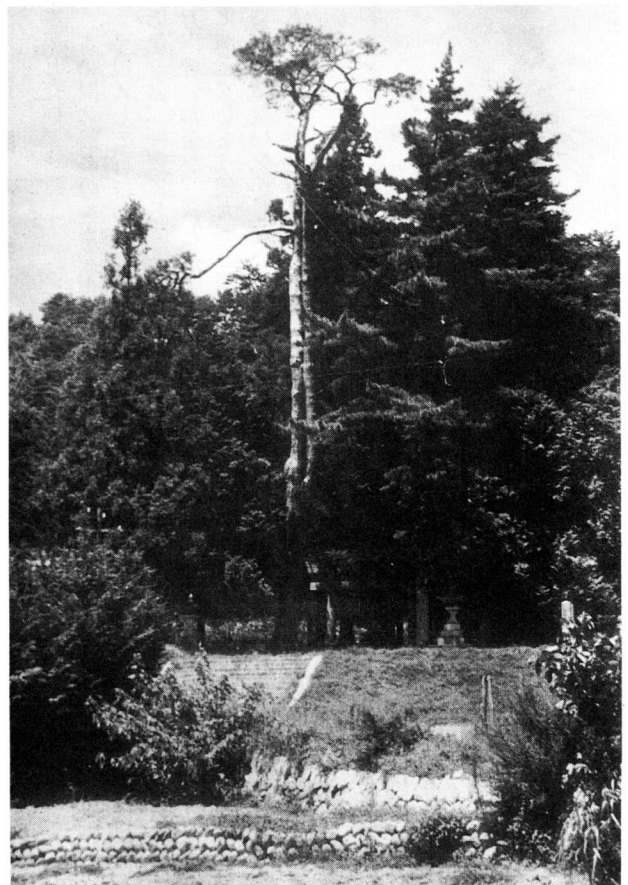
戦敗れし関東軍将兵が列を正して、トボトボとシベリヤへの道を辿りし絶望の秋なりしを併せて思い起し改めて平和の尊さをかみしめ「感」無量。

「終り」

萩山神社のあれこれ

西村 東一郎

御大典記念事業が区民皆さんの御協力に依り完成したことは、区報十七号で報告の通りであります。引き続き獅子頭（幌付）一式・お祭り法被（子供用六十着、大人用三十着・神子用装束衣袴五人分一式（浦安の舞）等、計画実現の段りに入っております。



昭和30年当時の萩山神社大門前

ちなみに浦安の舞は、紀元二六〇〇年が始まりとの宮司さんのお話です。十一月十二日に予定されているご即位の礼には、外国から賓客として元首、準元首クラスの参列を得て盛大に行われると報道されて居ります。神社の弓道場は間口四間、奥行二間の広い控室があり、以前は茅ぶきの屋根でしたが、今はカラートタンになっております。昭和五十年頃まで春秋のお祭りには、奉納射会に町内の会員ばかりでなく伊賀良・大島など他町村からも多数の参加があり祭りを盛りたてました。八幡様は弓矢に通じた神様で、本殿に向かって右側に祭られています。地区内弓友会員の皆様に御願ひして射会を再開して頂く様にしたいものです。拝殿の屋根は銅板葺ですが、一部に雨漏りが見つかりました。建築されたのは大正十四年（六十五年前）です。補修については板金加工や大工仕事もあり検討中ですが、早急に致したいところです。神前参道は約七十メートル余りで、以前の参道は中央に切石を敷き途中に二段の石段があり、昭和十七年に改修され現在の玉砂利の参道となる。参道西側にうっそうと繁るもみ・杉の大木は樹齢三百年以上と云われております。二年参りには青年部の協力を頂き、ホウズキ提灯が参道を照らして足もとが明るくなりました。写真は参道入口にあった神社の象徴、松の太木です。三六災害で被害を受け危険でしたので、残念ですが伐採されました。年輪を数えたら五〇〇年以上経過していると、小川光男さんのお話でした。

伊奈川和彦氏

指導員となる

りましたが、浅学非才、何
分にもその様な器ではござ
いせんがよろしく願ひ
します。

地域づくりの為の環境美
化活動も、主として奉仕的
事業ですが、多くのグルー
プが参加しております。

現在町では、重点事業の一つとして、コミュニティ事業を進めておりますがその内容については、既に御承知の事と思いますが、住みよい町づくりの為に集いと思っています。

会所など公共物へ、又萩の里祭りのような地区行事への補助事業から、グループを育成する為の事業など幅広い事業になっております。

現在町内には、教育・文化の向上、又地域の活性化の為にそれぞれの目的を

尚町では、各グループの育成の為、環境美化の事業の育成の為に、補助金制度があり、それぞれのグループに補助金が支払われることになっておりますので、申請をして下さい。（グループ活動分は本年度はメ



りました。）
現在は、生涯学習の時代
と言われております。グル
ープ活動の内容を見ると、
学習に健康に又趣味にと、
それぞれの目的を持ち多岐

に亘って活動をされておりますが、その学ぶ中から価値観を見出し、自分なりに感性を求める事ができ、コミュニケーションができると思う事は大切なことだと思います。

これらの活動を通して、町や地域の活性化と連帯意識を持つ事に依り、自分達の住む地域社会を住みよくして行こう、と言うコミニュティーの目的が達せられる事と思います。

各区のコミュニティ行事紹介
各区、盛大に
コミュニティ行なわれる

灯籠流し



六区市岡治男

を果したい。

この夏に最高のエネルギーを投入して行なわれたこの祭りは、一夜にして一千万円近いお金が、音と花煙に消えてしまう超大型の消費、勿体ない気がしないでもないが、史上最高の人出

は猛暑の連続で予測されている夏の訪れとは云え、このほか厳しい夏。

この暑さの中で繰り広げられた（灯籠流し夏祭り）について、二ヶ月半という長期にわたりご苦労された役員諸氏に深謝しつつ、そのひとこまを紹介して責任



といわれた大観衆を、しばし興奮のルツボに誘い込む魔力は正に神秘的であり、この地区になくってはならない夏の催しものかも知れない。

「出砂原」、この地は歴史に残る正徳の未満水で押し

祭り準備の中で一番苦労するのが資金集めで、知人を訪ねたり従来の名簿をたよりに協力を願う訳ですが、足を棒にして歩いても空振りになることしばしば、あらゆる困難を克服してやりぬいた熱意と行動力には唯々敬服するのみ。

流された土砂によってつくられた扇状地、無人の原野に人が住み始め、鉄道が敷かれ市田駅開業の頃から急速に発展して来たこの地は正に「ニューフロンティア」の先進地、その開拓精神は各方面で活発な動きとなつて現われてきた。

このように大勢の協力を得て、八月十八日の灯籠流し夏祭りは、好天に恵まれ無事終了することができた。まずは新盆供養の川施餓鬼に始まり、川面を照らす音と光のハーモニーの饗宴する中、町内伝統芸能の交流、親戚知人のふれあい、高令在の姿となった。

そこで神仏崇敬の念厚に同好の志が相集い、水難者の霊を祀り、商売繁昌に感謝の願いを込めて供養したのが大正十四年（一九二五）今年には数えて六十六回目、以来ゆれ動く世代に休む事なく年々その動きを替え現在

者の招待等々、コミュニティの輪は一段と拡がり、町を挙げての観光事業へと着実にその足固めができてつあることはまことに喜ばしい限りである。

伊那谷の風物詩とまで云われる程になったこの祭り、先人の尊い教訓を忘れずに意義深い祭りの原点を再認識し、他町村に誇れる行事として次の世代に継承したと

灯籠流しのファイナルと共に当町の夏は終り、子供達は二期の勉学に、帰省中の人達は又故郷を離れて大都会の会社人間に、祭りのためにエネルギーを燃焼させて頂きたい。終り



この間多くの方々との出会い、年毎に新しい事業もふえて、何かと忙しい日常生活の中で、コミュニティーを通してのふれ合いに心から感謝を致しております。

5区コミュニティーについて

5区 宮下 政司

平成元年一月より、五区部落長・区代議員として、もとより其の器でもない微力な私ですが、この二年間下市田区の皆様方には何かとご指導ご協力をいただき大変お世話になりました。

今回先程行われた、五区のコミュニティースポーツ大会の概略を紹介します。目的は部落全員の参加が出来るグラウンドゴルフ・ミニソフトバレーを年度始めより計画を立て、研究を進めてまいりました。日時は九月九日午前九時開始。場所は高森中学校グラウンドと町民体育館（ミニソフトバレー）。試合内容は、各常会対抗、ホールは十六ホールにて其の内一ヶ所ホールインワンコースを含む。各常会を四班に組分けし一番・五番・九番・十三番の各ホールから打始める。幸いに天候に恵まれ炎天下三十度の暑さにもかかわらず、各組グラウンド一杯に別れての熱中ぶり、休憩をする間もない程でした。老若男女いりまじり、あっちこっちで歓声も沸き起り終始和気藹々のうちに、コミュニティーならではの大会も無事終了しました。又体育館では、女子チームのミニバレーも、有志によりなごやかなうちに闘志を燃し、さすが今年六月に行われた下市田区の大会の、優勝チームにふさわしい試合が出来ました。

・試合結果 一位平塚一常会、二位武陵地二常会、三

四区のふれあい広場

四区 原 正

四区の部落では昨年完成した多目的広場の披露も兼ね、部落の皆さんお互いの交流を深めて頂く事を目的に、社会福祉協議会協賛による家族ぐるみのふれあ



い広場を、八月五日に実施致しました。気温三十五度を越す猛暑の中、南部広場に於て、常会対抗のゲートボール大会を開催し、各常会共、好プレー珍プレーの出るたびに笑いと声援の中、市場常会が見事優勝の栄冠を手に入れました。

れ、さかなな拍手とお花が飛びました。その頃になると暑気払いの一杯機嫌も手伝って会場も盛り上がり、お楽しみコーナーの若い皆さんは汗だくで、焼とり、焼そば、五平餅、トウモロコシ、アイスクリーム屋さんは大繁盛。会場の人波も二〇〇人、三〇〇人と増え、参加者全員の高森音頭、竜峡小唄の踊りの輪が広がり、舞台では小学校の子供の「泳げタイヤキ君」の踊りも飛び入りで披露されさかなな拍手が送られました。一息入れた所で子供の火花大会が始まり、喜々として火花に打ち興じる子供達の姿を見る時子供同士の大きなふれ合いの必要さを感じました。第二部に入り老人クラブの出し物、唄と踊りの共演に会場は湧きかえりました。町長さんも飛び入りでカラオケの一と節を唄って頂き感激しました。次いで各常会の出し物。なにが飛び出すやら大いに期待をしていました。上洞常会では「ちょっとだけよ」、市場常会では「佐渡おけさ」、第三常会では「大黒舞」、新

位中谷常会。個人 一位四組、ホールインワン一組、女子優勝チーム。

大会終了後、部落のシンボルである下五会館にて、今後益々地域住民の融和と発展を祈念し、懇親会もさらに盛り上がり有意義な一日でした。地域の大勢の方々のご協力をいただきありがとうございます。

午後五時総合司会の木村さんの進行により開会式となり、原副部落長の開会宣言に始まり部落長挨拶、社協会長でもある町長さんの御挨拶、唐沢下市田公民館長さんの御挨拶を頂き、子供代表四人による「ふれあい広場の始まり」の横断幕の掲揚と爆竹と煙幕のセレモニーでイベントが開会されました。大正琴クラブの演奏、詩吟クラブの吟詠、民謡クラブの踊りが披露さ

第三常会では「大黒舞」、新

井常会では「木曾路の女」、洞常会では「壁塗り音頭」が発表され、いずれ劣らぬ見事な出来映えでした。続いて飛び入りでカラオケの競演となり我も我もと出て頂き時間のたつのも忘れるほどでした。最後に全員で高森音頭で締めくくり、社協の岡田さんの閉会の言葉、原教育長さんの万才の音頭でふれあい広場の幕を下ろしました。

このイベントが予想以上の大きな成果の得られました事に對し心からお礼を申し上げ、お力添えを頂きました関係皆様に深く謝意を表し、紹介を終らせて頂きます。



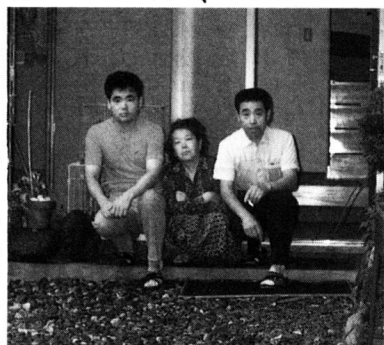
下市田区民となって

五区 花井 芳 秋

の家を継いで
ゆくつもりで
す。

こちらの生

住み慣れた飯田市の山本からこの下市田地区に引越してから、早くも四ヶ月が過ぎようとしています。現在は、両親と四人兄弟の末っ子である私との三人暮らしです。三人の兄はそれぞれ伊那・埼玉・東京と離れていますので、ゆくゆくは、私が嫁さんをもって、こ



も、本当に気さくでいい人ばかりで、この地に家を持てたことを、両親共々喜んでいいます。

この下市田地区も、これから、さらに開発が進み、何年か後には家の回りもま

ったく違った光景になっているかもしれません。そして、その途上では色々な問題も出てくるのではないかと思います。区民の一人として皆さんと一緒に地区の発展の為に協力していきたいと思っています。そしてこの地区にも、色々なコミュニケーション活動があると思っています。

おそらく、この地にずっとお世話になると思いますので、地区の皆さん本当によろしくお願い致します。

ようこそ下市田へ

下市田区民となって

一区 菅 沼 富美子

青く澄んだ空、心地よい風、すっかり秋らしくなって参りました。早いものでこの、大丸山のふもと、春には、つつじが咲き、大空にそびえる美しい松の見える地に、お世話になって、六年になろうとしております。当時は、常会もなく、近所の方とも、会えば挨拶する程度の付き合いでした。それまでの生活も、転勤の

度には引越しばかりしておりましたので、それが、淋しいとか、つまらないとか思いませんでした。むしろ、さっぱりしていて良いとさえ思っておりました。一年位しまして、町や区の勧めもあって新しい常会ができました。いろいろな行事に参加させて頂く様になり、人と人の「ふれあい」の大切さ、楽しさを知りました。そして区の方々と



でも親切です。先日、「婦人ふる里づくり」で、お目にかかった事のない他の三常会の方々と、ハツケ岳方面へ、バス視察旅行に行かせて頂き、楽しい一日を過ごし、ふれあいの輪が広がりました。主人と植えました。庭の木も、根をおろし、少しづつ大きくなっております。私も、

この下市田に根をおろし、少しずつ成長していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

県美術展入選の喜び

一区 塚 平 真 三



人には、それぞれいろいろな趣味があるもので、人生をおくる中で趣味を持つ事はとても大切な事だと思います。絵画もその一つで、私の趣味として、大切にしています。今、町の公民館事業の中に、水彩教室があり、熱心に御指導下さる座光寺厚先生のもとで、月二回の勉強会に、皆さん頑張っております。

その中で、第四十三回県

展に八名の方が入選するという実績をあげました。これも先生の、力強い御指導の賜ものと一同喜んでおります。又今後の励みにもと皆さん張り切っています。それに親睦を深めることも忘れずにしています。

下市田関係の入選者は次の皆さんです。

・福沢シゲさん

・「からすうり」

・加藤みつ江さん

・「旅路」

・原 登茂子さん

・「味噌部屋」

・中谷もと子さん

・「街」

・塚平真三さん

・「神の峰」

原登茂子



ふるさとの再発見

—伊那谷自然友の会の出版物紹介—

二区 松島 信幸

1 『野山の薬草』

—家のまわりの

野草百科図鑑—

都会から見ると私たちの家のまわりにある野草は野山の薬草だそうす。都会では小さなベストセラーになりました。いなかでは普通の草が、薬草として注目されています。

その見分け方をカラー写真とイラストで示し、薬草に対する方法と調理の仕方を図解してあります。写真は伊那谷で撮りました。

たゞひとつ注意したいこと、除草剤をあびていないことを確かめましょう。何でも除草剤での管理には反省してほしい。

・定価 一三三〇円、農文協発行、各書店で発売中。

2 『かざこし山』

—風越山の自然と文化—

四季を通じて一番大勢の人們が登る山、その名は、『風の越えてくる山』です。名のとおり、日々の天気が村里に降りてきます。

花から木まで、小鳥から小動物まで、小さな石仏からすべての文化財まで、ひとつずつをカラー写真とイラストで紹介し、場所をイラストマップで示してあります。

山歩きを楽しむは『かざこし山』ガイドブックで。

・定価 六〇〇円

・申込先 一元一哭

上伊那郡箕輪町一五九一

紹介 自費出版あれこれ

童話集を出版して

四区 北原 幸男

このたび、童話集「チェのたからもの」を上梓しましたところ、はからずも今年の二月塚原健二郎文学賞を頂くことになり、大変ありがたいことと、恐縮いたしております。

授賞しました当時は、有線をはじめ、新聞社・ラジオと、今だから経験したことのない渦にまきこまれて、自分が自分でないような毎日でした。ようやくこのごろ、身辺も静かになり、あらたに賞をもらって、つたことのへ



二十五年にわたる役場勤めをやめて『毎日が日曜日』という生活になったのは、十二年前だった。

そのとき、まず、頭に浮かんだのは、このような生活をしていると、ぼけてしまふぞ、ということだった。では、なにをするか、と考えたとき、長年の夢だった

伊那谷自然友の会出版部（送料はいりません）

3 『中央アルプスの自然』

ときどき各地から自然友



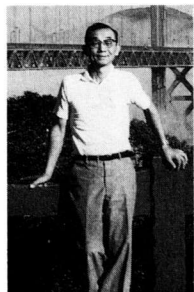
の会あてに便りがきます。西駒に登山し、本書を見つけ、本を使つた人たちです。可憐に咲く高山植物の名前を見つけた喜びや、ロマンを伝えてくれる山のでき方を再発見したときの感動を書きそえてあります。それらの人たちは伊那谷の野や川の愛好者として、本会への入会を申し込んでくれます。

夫の七回忌を機にささやかな遺句集「赤石」を編むことは念願でもあり、又供養になることと思ひ、全くの素人の手探りの作業から始めました。夫は生存中句誌「火燿」に投句したのが二千余句ありその中から私の好きなものを選びました。それはこんな状況の時この句が浮かんたのかなと思ひ、過ぎし日の記憶を懐しみながら書きぬきました。

また亡夫は植物のスケッチが好きで、郵便局長退職後は暇を見つけては自然の姿を描こうとしておりましたので、所々に挿入し夫の心を再現してみました。思えば昭和四十一年大鹿村より高森町一町民として越して参り、それ以来お世話になっております。市田柿淑気の苴に粉を吹

夫の遺句集

一区 豊原とよ子



外国旅行をしようと思ひつた。十年以上かけてきた郵便局の海外保険が、近く満期になることがわかったからでもあった。

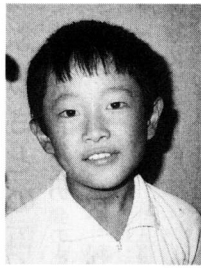
二年間、飯田の英会話教室へ通ひ、さびつたあたまた活を入れた。ツアーで



小中学生の作文

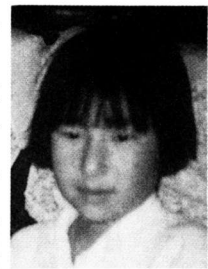
の と 旅行

小三 中村 真哉 (三区)



ぼくは夏休みにのどへ旅行に行きました。中央道や県道や北りく道やいろんな道を通りました。のろしまで十時間もかかって、道のりは五百キロもありました。と中でラジオ体そうをした

七月三十一日から一週間私はチャレンジキャンプに行ってきました。



チャレンジキャンプ

小五 北沢 文衣 (二区)

といっしょに生活していくうちに、ほとんどの人と友だちになれてよかったです。

毎日いろいろなことがあったけど、一番楽しかったのは、竹ざいくです。私はおはしと、おわんを二つ作りました。

今年のはじめてということで、参加者も少なかつたようなので、今度このような行事が町であつたとき、私としては、とてもよい思い出になったので、どんなに大変か、よくわかりました。

最初のうちは、しつている人があまりいなくて少し不安でしたが、二日、三日

ほかに、登山や沢あるき

いたのです。また、日本のインスタントラーメンもあつて、お豆腐を入れて作ってくれました。私が、日本の料理を恋しく思っている

アメリカにホームステイして、本当に良い経験になりました。大きくなったらまた行きたいと思っています。

アメリカにホームステイして

中一 塩 沢 有紀子 (六区)



八月三日から十二日まで町の国際交流で、アメリカのサンディエゴ市にホームステイしました。私がお世話になった家は、お父さん

アメリカの人たちはみんな明るくて、オープンで、親切で、すぐ仲良くなれました。私たちが訪問した中学校の子たちもそうでした。休み時間になるとニコッと笑って話しかけてきてくれて、仲よくなつて、ランチも買ってくれました。ペラペラと速く話すのでついていくのに大変でしたが、心の寄稿を感謝します。

――編集後記――

せんでした。(ウルリアップ) ついに待っていた民宿な

の形の石とか橋がありま

町の子の三人のお姉さん

お父さんも日本食が好きだ

アメリカの最大イベント「萩の里まつり」で各区の様子をスナッ

。各区で盛んになりつゝ、ありますコミニティー事業の様子も御紹介します。おそくなりしましたが第十八号の発行にこぎつきました。皆様の

の

の

の

の

の